

高等部の教育

高等部主事 鳥飼 昌子

今年度、高等部は訪問教育の生徒を含め、1年生16名、2年生12名、3年生14名の合計42名で学校生活を送っています。4月11日の入学式で16名の新たな顔ぶれを迎えて3学年揃っての高等部がスタートしました。入学式では緊張の表情を見せていた1年生も徐々に高等部の生活に慣れて笑顔で毎日の生活を送っているところです。4月13日には対面式が行われ、1年生は高等部生活で楽しみなことや頑張りたいことなどの発表をしました。2、3年生は楽しい学習や新しい活動の紹介をして、「分からないことがあれば何でも私たちに聞いて下さい。」と先輩としての思いやりをのぞかせていました。これからの学校生活を協力しながら過ごす仲間として先輩の姿は頼もしく、大きな存在として映ったのではないのでしょうか。また、そうあって欲しいと願っています。

4月27日には高等部役員選挙が行われ、今年度の生徒会役員を投票で決定しました。18歳からの選挙権が認められるようになり、実際の選挙により近い形を体験してもらうために、選挙管理委員による選挙運動やポスターのルールの徹底を行いました。候補者は、毎日お昼休みの時間を利用して高等部を回り、選挙活動を行いました。立会演説会では、候補者一人ひとりがどんな高等部をつくりたいのかを熱意を持って伝えていました。投票日には実際に使用している投票箱と記載台を南区の選挙管理委員会からお借りして投票を行いました。実際の物を初めて見た生徒も多く、実践さながらの緊張感の中での投票となりました。



本校高等部は、学校生活の出口として卒業後の社会生活に向けて、どんな力を付けることが必要なのかを日頃から意識し、毎日の学習に取り組んでいます。多くの生徒は自宅から日中活動の事業所に通う生活になります。しかし、日中活動の内容はそれぞれの事業所によって異なります。高等部で付けなければならない力は、作業を上手にできる力よりも、「自分の意思を伝えることができる力」「相手のことを思いやれる力」そして「意欲的に取り組む力」ではないかと考えます。こうした必要な力を身に付けるために、実践的、体験的な学習を取り入れ、「街へチャレンジ」「生活体験実習」「校外学習」などを行っています。他に、校内向けの販売活動や地域の方々とかかわりながらの取り組みの機会を設定し、より卒業後の生活に近い学習を計画しています。みんなが楽しく、笑顔になる学習を目指して、高等部職員はじめ、学校全体そして関係機関と連携しながら、生徒や保護者の方々が思い描く卒業後の生活に近づくことができるように、めざす将来の姿を共通理解しながら、指導に努めていきたいと思っています。

